

# 平成25年度 学校評価シート

学校名： 有田中央高等学校 学校長名： 清水博行 印

目指す学校像 ・ 育てたい生徒像	「地域社会の中核を担う若者を育てる」 1. 明るい家庭を築き、地域の活性化に貢献する若者 2. 職業人として地域の産業を支え、地域の発展に尽くす若者 3. 地域の行事や活動に参画し、地域のつながりや絆づくりに励む若者
------------------------	---

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1. 生きる力のバックボーンとなる学力獲得に繋がる学習指導の徹底と、地域社会の中核を担う若者の育成に結びつくキャリア教育の充実
	2. 自らの将来や社会全体を意識した行動規範の確立と、自他の可能性を尊重し合う、希望にあふれた学び舎の創造
	3. 教員の資質向上を伴った組織的な学校運営と、学校外の活力をいかした教育活動の充実による学校力の質的転換

達成度	A	十分に達成した (80%以上)
	B	概ね達成した (60%以上)
	C	あまり十分でない (40%以上)
	D	不十分である (40%未満)

学校評価の結果と改善の方策の公表の方法
インターネットのホームページによって広く公表している。

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。  
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自己評価					年度評価 (3月6日現在)		
重点目標					評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標			
1	教員の授業力向上や授業規律の確立への取組や、3年間を見通したキャリア教育の編成等は進んでいる。基礎学力の定着等は未だ不十分であるとともに、中退や早期離職者の減少には、生徒に生き方・在り方を深めさせる取組が必要である。	生徒の課題や発達段階に応じた取組や指導がなされ、具体的な成果に繋がっているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力面の課題克服に実効性のある学習指導の展開</li> <li>将来展望の実現に繋がる基礎学力の定着</li> <li>プロセスと結果を重視した進路指導の徹底</li> <li>体験的学習の充実による、生き方・在り方の深化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員が研究・公開授業を3回以上実施</li> <li>各学年でGTZ(実力テスト)においてCゾーン以上の生徒20%以上</li> <li>2学期末までに3年生全員進路先内定</li> <li>有中版デュアルシステムに15名以上参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員がのべ104回の研究・公開授業を実施した。</li> <li>20%は達成できなかった。</li> <li>2学期末では就職内定率87.5% 進学内定率93.5%と昨年を大幅に上回った。2月末では就職内定率は100%、進学内定率は98.3%であった。</li> <li>昨年より増え6名が参加した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員がより積極的に取組めるよう全校的な推進に繋げる運営の工夫や、研究協議等の充実が必要である。</li> <li>学力の定着・伸長に課題を抱える生徒が多い。授業改善の取組や進路ICTを充実していく。</li> <li>3年間のキャリア教育の編成に基づき、各学年団が生徒の成長段階に応じてより主体的に指導していく体制づくりが求められる。</li> </ul>
2	生徒理解が深まり、改善されるまで徹底する生徒指導と自尊感情を高める生徒支援を両輪とした取組により、前向きな生徒が多く育ち、学校全体の活力も高まっている。深刻で多岐にわたる課題を抱えた生徒が年々増えるとともに、家庭の教育力の低下や理解・協力が得難い保護者もあり、指導が困難になっている。	教員一人ひとりが生徒と真摯に向き合い、生徒の課題克服に向けた実効性のある指導を行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>身だしなみ指導の徹底</li> <li>自尊心や共生を育む指導の充実</li> <li>リーダー育成及び部活動の活性化</li> <li>生徒への課題への組織的対応力向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「スカートひざ丈」、「化粧一掃」の徹底</li> <li>生き方・在り方を深めることに繋がる具体的教育活動の創造</li> <li>リーダー育成の取組を年6回実施 2年生の部活動参加率50%以上</li> <li>ケース会議の即時開催(3時間ルール)の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担副によるSHR指導やチェックシート等の活用で概ね徹底できた。</li> <li>協同して「生徒目標」を創るという取組などを通じて、生徒の自らの「生き方・在り方」について考えようとする意識が高まった。</li> <li>リーダー育成の取組、2年生の部活動参加率は共に評価指標を達成できた。</li> <li>ケース会議の即時開催はほぼ達成できた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らルールを守ろうとする生徒はまだ少ない。「見逃さない指導」の徹底が必要である。</li> <li>生徒の意識は高まりつつある。日々の行動につながるよう、支援していく必要がある。</li> <li>リーダーが、より高い意識を持てるよう、取組の充実を図る必要がある。部活動については、さらに参加率を高めると同時に、活動実績等の充実を求めていく。</li> <li>各教員の参画意識やスキルを向上させ、ケース会議の実効性を高めていく。</li> </ul>
3	授業力向上等の教員の資質向上につながるOJTが機能するとともに、地域との連携が進み、一定の評価を得るようになった。学校の情報発信力をさらに強化し、保護者や外部の力を活用した教育活動に向けた質的向上を図る必要がある。	教職員の協同性・同僚性の向上と、地域から真に必要とされ期待される学校となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校力向上につながる教員</li> <li>本校の魅力や教育力についての理解を高める</li> <li>地域協育会の活動への教員・生徒の主体的な参画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任力向上ゼミの年6回以上実施</li> <li>3回の学校説明会の参加者に対する入学者割合80%以上</li> <li>地域協育会の7つの部会の活動実績を前年比30%増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任力向上ゼミは3回実施した。</li> <li>入学者割合は56%で、目標を下回った。</li> <li>7つの部会の活動実績は部会にもよるが、概ね30%増を達成できなかった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>より多くの参加を図るために運営について工夫を行う必要がある。</li> <li>回数、内容、中学校への呼びかけ等について検討し、より効果的なものにしていく必要がある。</li> <li>教員に、より積極的な参画を求めていくと同時に、日々の業務との関連を深め、教員が関わり易い体制を整える。</li> </ul>

学校関係者評価
平成26年3月6日実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>○授業改善の取組については概ね評価を得ている。とりわけ、教員各自が授業展開やICT活用等の研究や工夫を行い、分かりやすい授業に努めていることについては高い評価を得ている。しかしながら、基礎学力の定着については、自己評価と同様に、改善を求める要望もあった。</p> <p>○本校の進路指導については、就職内定率が100%を達成したこともあり、高い評価を得ている。一方で、本校の3年間を見通したキャリア教育の編成については、もっと周知していく必要があるとの指摘があった。</p> <p>○生徒指導では、本校のミッションに基づき、身だしなみについて厳しい指導を行っているが、今年度は「化粧の禁止」や「スカート丈」について徹底した指導に取り組んでいる。関係者には、このような指導について、よく理解をして頂いているが、「生徒には指導の意図をよく理解させてからの指導が必要である。」との意見もあった。</p> <p>○クラブ活動や生徒会活動について、ここ数年、活発になりつつある、との感想を持たれる方が多い。学校行事や特別活動の活性化に向けた本校の取組が成果を収めつつあると考える。一方で、教員も生徒も、かつての隆盛を取り戻すために、もっと頑張りたい、との要望もある。</p>

